

## 令和3年度 第2回四條畷市立図書館協議会会議録

- 1 日時 令和4年3月25日（金曜日） 午後3時30分から午後4時39分
- 2 場所 市民総合センター2階 集会室
- 3 出席

(1) 図書館協議会委員

○出席委員は次のとおり

福井 多恵子会長 高垣 聡美副会長 羽森 清司委員 鉄 寿広委員  
藤井 啓子委員 金城 優子委員 尾崎 安啓委員 小林 初根委員

※欠席：大庭 つばら委員、林 美香委員

※「四條畷市立図書館協議会運営規則 第6条」により、出席者が定数の過半数に達しているため協議会は成立

(2) 四條畷市教育委員会事務局の出席者は次のとおり

阪本教育部長 田中図書館長 福井田原図書館分館長 根木職員

4 議題 次のとおり

- (1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた図書館の対応について
- (2) 令和4年度当初予算と主な事業について
- (3) その他について

5 本日の議事次第記録者 次のとおり

根木職員

6 開会

田中館長

それでは、定刻になりましたので、ただいまより、令和3年度第2回四條畷市立図書館協議会を開催いたします。

本日は、ご多忙のなか、また新型コロナウイルスの感染についてまだ安心できない状況のなか、ご出席いただき有難うございます。なお、林委員と大庭委員におかれましては、所要のため欠席との連絡をいただいておりますが、委員定数の過半数の出席をいただいておりますので、四條畷市図書館協議会運営規則第6条の規定により、本会が成立いたしますことをご報告いたします。

次に、議題に先立ち、まず事務局の出席職員を紹介させていただきます。

阪本部長

皆さんこんにちは。教育部長の阪本でございます。よろしく申し上げます。今週初め、雨が降って非常に寒かったですけども、今日は上着もいらなかなという状況でございます。図書館、この年度末、行政の方でいろいろ人事異動、出会い、別れがございます。図書館は、異動はございませんので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。私事になるのですが、私は地元の小学校中学校出身なんですけれども、中学校のときにお世話になった恩師が、この3月末に引退されるということで、私自身のこの行政生活もさることながら、いろいろ中学時代のアルバムを見ながら、「先生若かったなあ」と思いながら、自分の年を棚に上げて、「先生もご勇退されるんだな」という思いに耽つ

ておりました。

一方で、新しい出会いもありますので、これも行政では仕方がないことだと思います。4月から新しく迎える、教育委員会の職員には市役所に勤めてよかったな、教育委員会に入れてよかったなという思いを抱いてもらえるように、部長として責任を持って指導していきたいと思います。よろしくお願いします。

(続いて、出席職員紹介)

田中館長

では、次にお配りしております資料の確認をお願いいたします。

まず、事前に送付いたしました資料をご用意ください。

資料1 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた図書館の対応

資料2 令和4年度当初予算と主な事業

次に、本日、机上配布させていただいております資料をご覧ください。

1点め ヘッドラインニュース (1枚もの)

2点め 教育振興基本計画 (冊子)

以上でございますが、皆さまお揃いでしょうか。よろしければ、以上の資料に沿って議題を進めさせていただきます。

議題に先立っての説明は以上でございます。この後は、議題に入りますので、進行は会長をお願いいたします。

福井会長

皆さん今日はお忙しいなか、お集まりいただきましてありがとうございます。

先ほど、館長さんも仰いましたように、新型コロナウイルス感染症も、なんとかまん延防止重点措置も解除になりまして、収束とはまいりませんが、少し落ち着いてきたというところがございます、穏やかな日常が今後も続きますことを願っております。

しかし、ほっとした半面、世界に目を向けますと、一国のなんとも理不尽な理由で、ある国では何千人もの死者が出たり、あるいは三百六十何万人ですか、一般市民が祖国を離れなければならないというような事態が起こっております。ふと、テレビでそういう映像が流れる度に、自分のことを振り返ってみますと、穏やかな、今日のような陽ざしのもとで、図書館に来て、好きなだけ好きな本を選んで、そしてまたゆっくり読むことができる。こういう環境、こういう日常が、今までごくごく当たり前のことだと思っておりましたが、これは当たり前ではないのだと、そういう日常が送れることを感謝しなければいけないと痛感しています。一日も早く、ウクライナのお母さんが地下のシェルターから出て、明るい陽ざしのもとで子どもたちに絵本を読んで聞かせるというような日が、一日も早く来ますように、ただただ祈るばかりでございます。

本日は、案内にも書いていただいております通り、新型コロナの感染症拡大防止に向けた図書館の対応についてということで、どのように対処していただいて、親身に図書館サービスを継続して行っていただいたかということ。それと次に、昨年秋に皆さんにいろんなご意見いただきました。令和4年度の予算について、一応ほぼ確定した内容の説明と、それから皆さん方のご要望を受けて、新たな図書館活動を企画していただいて

おります、今日のチラシを見せていただいて、なかなかいい企画だなと感じているところなんですけれども、そういう事業についてもご説明いただきたいと思います。

そして最後に、その他の事項としまして、皆さん方から出していただいた、あるいは今日資料配布していただきました、四條畷の教育振興基本計画等につきましても、何かご質問等がございましたら、またお話いただければと思います。

そういうことで、進めさせていただきますけれども、コロナが収まったとはいえ、やはりできるだけ簡潔に短時間で、終了することが何よりでございますので、会議の進行には、どうぞ協力よろしく願いいたしたいと思います。

それでは議事を進める前に、四條畷市図書館協議会運営規則第9条の規定により、会議録を作成する必要がありますので、同2項に基づき会議録の署名委員を指名させていただきます。今回は高垣副会長にお願いしたいと存じますがよろしいでしょうか。

高垣副会長

よろしく申し上げます。

福井会長

それでは議題1に入ります。事務局から説明をお願いします。

田中館長

昨年10月に開催の前回の協議会において、10月までの状況につきましては報告させていただいておりますので、11月以降の状況をご報告いたします。

まず、1 開館状況。11月以降においては、「まん延防止等重点措置」が、1月27日から2度の延長を経、先今週の3月21日まで発出されておりましたが、幸い休館等の大きな制限を加えるまでには至らず、お配りしました表の8月2日からの開館対応である制限付き開館と同じ内容のまま、つまり、前回協議会開催時の状況と変化なく現在に至っております。

次に、2 行事開催。行事におきましても、昨年11月以降は、特別に中止期間が設けられることはなく、開館状況と同様に、変化なく現在に至っており、下半期は、予定どおりの行事開催が行えております。

次に、3 利用状況。昨年10月以降は、配布資料に記載のとおり、どの月も前年同月比が100%を上回っており、今年度上半期に引き続き、徐々に、利用が戻ってきている状況でございます。ちなみに、新型コロナウイルスのニュースが日本において大々的に流れ始めたおとしの1月の貸出利用冊数が、注2のとおりですので、少なくともその時点までは、おおよそ、回復してきている状況でございます。

以上、議題1の説明でございます。

福井会長

ありがとうございます。ただいまのご説明に基づきまして、何かご質問等ございましたら、ございませんか。

図書館でも、いろいろ感染防止対策をしていただいたなかで、できるだけ市民の皆さんに図書館に来ていただけるように、働きかけていただいた結果、まん延防止重点措置が発出されておりますなかでも、徐々に利用が増えていっているとのことで、図書館の尽力の賜物だと思います。ございませんか。それでは、次の2番目の予算、当初予算と令和4年度、新年度の主な事業について事務局の方からご説明お願いいたします。

## 田中館長

令和4年度の予算要求にあたっては、前回の協議会で提案いたしましたとおり、児童サービスを中心に、特に、子どもたちの最も身近な図書施設である学校図書館への支援と、同年齢全ての子どもが対象となるブックスタートの重要な2事業は予算確保に注力し、また現在取組めていない大人向けの行事の実施へ向けた予算確保に努めました。

まず、1 利用者サービス事務について。

事業内容は、開館業務や行事開催であり、そのための職員雇用や講師への謝礼が主な予算となります。令和4年度は、369万5千円が措置されました。前年度からは、2万2千円の増額となり、予定どおりの人員体制と行事開催が見込める予算額となりました。大人向け行事も予定して参りたいと思っています。

続いて、2 図書館資料関係事務について。

事業内容は、資料の収集・保存、管理に関するものであり、図書・雑誌等の購入、資料データの作成などが主な予算となります。令和4年度は、987万9千円が措置されました。前年度からは58万9千円の増額となり、予定どおりの資料購入や図書データの作成業務が見込める予算額となりました。

増額のうち、大半を占める48万円分については、ふるさと納税充当枠の「子どもたちに本を」の枠を活用した単年度臨時予算でございます。学校の調べ学習サポート向けの図書を充実させたく思い、充当希望を出したものでございます。充当希望の背景としては、市長の令和4年度の予算編成方針に、「どの市民のどの課題を解決する事業かを考えた予算要求を」との言葉があったことを受け、読書活動の課題を解決する事業として学校支援をとということを前回協議会で申し上げましたが、長年、調べ学習図書の不足が学校支援において大きな課題としてございましたことから、課題解消を目指し、要求を行った次第です。効率的な予算活用と運用を図るため、図書館で購入・所蔵のもと、各学校で調べ学習があった時に、当該の学校へ貸し出すという運用を予定しています。

続いて、3 図書館協議会関係事務について。

事業内容は、図書館協議会開催のための、委員方々の出席報酬でございます。例年どおり、2回開催分の予算が措置されました。

続いて、4 障害者サービス関係事務について。

事業内容は、通常の活字資料では読書が困難な方へのサービスに関するものでございまして、ボランティア団体への協力謝礼や資料購入費用が主な予算となります。令和4年度は、12万6千円が措置されました。前年度と同額であり、予定どおりの事業が見込める予算額となりました。

続いて、5 ブックスタート関係事務について。

事業内容は、毎月4カ月健診にて赤ちゃんに絵本をプレゼントするものであり、プレゼント用の本の購入が主な予算となります。令和4年度は、19万円が措置されました。前年度より9万円の減額となりましたが、このおおかたの要因は令和4年度に購入予定とした本の単価が、今年度購入の図書よりもかなり安価であったことによるものですので、例年通りの事業実施に差し支えるものではございません。

続いて、6 図書館管理運営事務について。

事業内容は、図書館業務を円滑に遂行するため維持管理にかかるものであり、公用車やコンピュータ等に関する経費が主な予算となります。令和4年度は、341万2千円が措置されました。前年度より10万5千円の増額となっており、予定どおりの維持管理業務が見込める予算額となっております。増額の要因は、コンピュータシステムにおける定期交換が必要なバッテリーの買い替え費用を臨時予算で要求したものでございます。

続いて、7 田原図書館管理運営事務について。

事業内容は、田原分館の開館業務にかかるものであり、会計年度職員報酬や行事開催経費、資料購入費などが主な予算となります。令和4年度は、865万9千円が措置されました。前年度より7万3千円の減額となっておりますが、減額の主な要因が会計年度職員の交通費が大幅に必要ななくなったものであり、差し支えがあるものではなく、予定どおりの維持管理業務が見込める予算額となっております。

続いて、8 ビブリオバトル大会事務について。

事業内容は、児童生徒対象のビブリオバトル大会開催のためのものであり、優勝賞品の予算を計上しています。令和4年度は、9千円が措置されました。前年度と同額であり、予定どおりの購入が見込める予算額となっております。なお、開催については、昨年度や今年度と同様にコロナの感染状況によることとなります。

続いて、9 学校図書館支援事務について。

事業内容は、学校図書館の活性化を支援するものであり、派遣する職員の報酬や館内整備のための消耗品費が主な予算となります。令和4年度は、小中学校あわせて882万3千円が措置されました。前年度から56万3千円の増額となり、予定どおりの支援業務が見込める予算額となっております。なお、増額分のおおかたはパソコンのWindows8.1のメーカーサポートが令和4年度内に終了するため入れ替えるための臨時予算でございます。

以上が、令和4年度の予算措置状況でございます。説明のなか申し上げましたとおり、どの予算項目も予定どおりの事業が実施可能な状況となっております。

この状況から、令和4年度に注力する施策を改めてご説明いたします。

まず、1利用者サービス事務、7田原図書館管理運営事務における行事開催予算から、大人向け行事の開催。

以前から、ご指摘いただいておりますように大人向けの行事がない状況ですので、実施してまいりたいと考えております。プログラムは、改めて精査する予定です。

次に、2図書館資料関係事務における図書購入費から、学校図書館の調べ学習支援用図書の充実です、このことについては先ほど申し上げましたとおりでございます。

次に、5ブックスタート関係事務でございます、同年齢の子ども全員が対象にできる貴重な事業ですので、引き続き注力して参りたいと思います。

次に、9学校図書館支援事務から、引き続き小中学校への支援員派遣への注力と、先ほど申し上げましたパソコンの入替えでございます。

議題2の説明は以上ですが、学校図書館支援に関し、若干の報告をさせていただきます。本市教育委員会において、毎月ヘッドラインニュースというものを発行しております。トレンドの話題を取り上げて周知を図るものですが、昨年11月発行分で学校図書館

支援が取り上げられました。A4の1枚ものですので、ボリュームが限られることから、取材については市役所から近い西中学校のみとなりましたが、写真入りで見ごたえのあるものになっておりますので、是非ご一読いただけますと幸いです。

また、あわせて学校図書館の蔵書冊数と貸出冊数について報告させていただきます。口頭のみ説明となりますが、まず蔵書冊数ですが、学校図書館においては学校全体のクラス数によって所蔵すべき冊数の基準がございます。平成27年度に学校図書館支援を開始した時は、一番多い学校でも80%弱で多くの学校が60%前後の状況でしたが、今年度は2校が基準に達することができました。

続いて貸出冊数ですが、学校図書館支援を開始後、支援員配置校は年々貸出が増えておりましたが、昨年度はコロナ禍1年目のなか、貸出数が減少する学校もみられる状況となりましたが、今年度は、コロナ禍が続く中でも、貸出数が増加に転じる学校が目立っている状況になりました。ヘッドラインニュースに記載のとおり、支援員の、またボランティアの方々の工夫した取り組みの結果かと思っております。

以上、議案2の説明でございます。

福井会長

ありがとうございました。ただいまの説明に関しまして、ご質問等ございませんか。

高垣副会長

ブックスタートで、今年度選ばれた本は何ですか。

田中館長

すみません。手元に資料を持ってきておらず、タイトルは申し訳ないことに覚えておりません。また後程、お伝えしたいと思います。

金城委員

学校図書、調べ学習用の資料というのはどんなものでしょうか。教えていただきたいと思っております。

田中館長

令和4年度の予算なので、これから4月以降に購入する形になりますが、選書の仕方としましては、支援員が各学校へ配置されておりますので、支援員を通じて担当の先生に、年間どのようなテーマが定番で、調べ学習でどのようなことを学ぶかを聞き取った上、図書館で選書しまして、必要だと思われる図書を購入したいと思っております。

福井会長

ありがとうございます。他にはございませんでしょうか。

藤井委員

質問とかではなくて、感想でもよろしいですか。このようなチラシを最初に見てまず驚いたことと、それから学校図書館に、市立の図書館がこんな風に支援員などを送って、共に育てていくといいですか、活用をすすめていくというのは、一体いつ頃からあるのでしょうか。私も少しだけですが、学校図書に関わってましたので、そのときから、いきなりパッと別世界に入ったようなニュースなんです。昔は学校のなかだけで、教室であたふたしながらやりましたけれども、このように支援員やボランティアの方が入って、まるでアメリカのように、噂に聞いたアメリカ旅行者を援助するという、まさしく

それだと思ひまして、すごく良いと思うんです。そして、具体的にこれを見させていただいて、すごいと思ひました。今だったら色々な知恵を働かせてできるんだと、本当に感心しました。

福井会長

ありがとうございました。

田中館長

学校の図書室に司書を配置するのは、古くからあったのですが、実際に専任の司書が配置されているのは全国的に少ない状態がずっと続いておりました。それが、国がこども読書に関しての法律を作ったあたりからだと思ひますが、徐々に全国的に学校の図書室に司書が配置されるような状況になってございます。

ただし、学校で司書を配置するということになりましても、学校の方で雇用されて、学校の図書室で働くということになりましても、学校で図書室を管理運営するノウハウをお持ちの先生方、あるいは職員がいない場合もございまして、配置しながらも、なかなかどのように運営していけばよいか分からない状況で、良い形で進まないという情報等も入手しておりましたので、四條畷市では図書室の管理運営のノウハウなどについて、市立図書館が主導する形で、職員を派遣して進めるのが、スムーズに行くのではないかと考え、第2次子ども読書活動推進計画のなかで、重要施策と位置付けまして、平成27年度に田原小から開始した次第でございまして。

藤井委員

すばらしいと思ひます。27年ということはその間に経っていませんね。まだ数年。

福井会長

最初、1校から始まって順番に増やしていただいております。

藤井委員

中学でこんな風に、こんなに子どもたちに。

福井会長

西中学校は去年からでしたか。

金城委員

6年めだと思ひます。ボランティア活動は6年ぐらいで、始めた翌年から図書館から支援員さんが来てくださるようになりましたので、支援員はまる5年か6年ぐらいになると思ひます。

福井会長

公の図書館と、それからボランティアの方の力、大きいと思ひます。

藤井委員

そうですね。本当に驚きました。

福井会長

そして支援員の能力ですか。

藤井委員

すごいですね。プロですもんね。

福井会長

支援員を育てて、指導していくのが、図書館の職員だとは思いますが。

藤井委員

すごい、素晴らしい連携だと思います。

福井会長

本当に、いい方々に恵まれて、成果が上がっていて、この場で常に報告していただいております。うれしいと思っております。これを機会に、子どもたちの生活力といいますか、一番端的には学力ということになりますが、全国でも大阪府が下位の方にある。その大阪府のなかでも、四條畷は少し低いという状況を、なんとか徐々に右肩上がりになっていきますことを願うばかりですが、一步一步、前進していったるのではないかと思います。そのために、この図書館協議会で皆さんの貴重なご意見をできるだけ、図書館の事務局、または市の教育委員会の他の先生方にもお伝えしたいと思っております。話は変わりますが、kyoukan って、Kyou は教育委員会のことですか。kanは何でしょう。

阪本部長

共感するということからきています。

福井会長

わかりました。ありがとうございます。他に何かございませんか。

高垣副会長

2 ページの、障がい者サービス関係事務のところ、4 番と 6 番のなかの会費というのはどういうものなのでしょうか。

田中館長

会費は、障がい者関係のサービスに関して、いろいろな情報を全国から収集して、会員に提供、あるいは、どの図書館がどのような作品を持っているか等の情報を提供する機関がございまして、そこへ入会しておりますので、その会費でございます。

先ほどご質問いただいた、令和 4 年度購入するブックスタート用の本ですが、『くっついた』です。

高垣副会長

出版社はどちらですか。

田中館長

こぐま社です。

高垣副会長

作者はどなたですか。

田中館長

三浦太郎です。

高垣副会長

絵も文も。

田中館長

そうです。三浦太郎です。

(絵本を委員に回す)

福井会長

他には、ございませんでしょうか。

藤井委員

今の障がい者サービス関連ですけれども、ここに大活字本などの購入はわかるのですが、私たちのあけぼのも、録音したテープやCDを納めさせていただいておりますけれども、実際にどの程度、活用、利用されているのか、聞いたことがないのですが、わかりますでしょうか。利用を希望される方はおられますか

田中館長

少数ではあるのですが、いらっしゃいます。

藤井委員

視覚障がい者の方が基本ですが。

田中館長

デージー図書を借りたいと来られる方は、年に1回か2回程度ございます。

藤井委員

そうでしょうね。特定の方ですから、やはり少ないですね。

田中館長

デージーは使い慣れてる方はいらっしゃいますが、作品が少ないものですから、小説を朗読したいいわゆる朗読CD、録音図書、あるいは、落語などの方が良いと、通常に所蔵しているCDを借りられる方の方が多いです。

藤井委員

通常のですね。

福井会長

ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

小林委員

図書館の活動状況を貸出数などで、このようにまとめていただいていると思いますが、本は借りないけれども、図書館に来てゆっくり調べたり、読んだりという方もたくさんいらっしゃると思います。すごく大事な図書館の役割だと思うのですが、今はコロナ禍で2、3年が通常通りではないけれども、そうしたことも図書館が活用されているかということとして、また報告していただけたらと思います。

田中館長

貸出等の利用はされないけれども、図書館で滞在のみで帰られる方も確かにいらっしゃいます。カウントはしていないので、印象だけになるのですが、コロナ以前はかなりいらっしゃったという印象がございます。土日などになりますと、館内の椅子がお昼ごろまでに満席になるという状況でございました。ただし、コロナ禍になってからは、やはり長時間滞在というのが憚られる状況のうえ、こちらからも短時間でのご利用を呼び掛けているということもございまして、長時間の滞在者というのはほとんどいらっしゃいません。現状は、平日では席の半分も埋まらないような状況でございます。主に長時間滞在しておられた方は、本をゆっくり読むというよりは、新聞を5紙全て順番に読んでいくような、年配の男性方が中心だったという印象です。

福井会長

はい。ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

羽森委員

6番の図書館管理運営事務のところですが、すでにご説明いただいたかもしれないですけど、システムバッテリーというものが何に使われているのかということと、それから保守委託料というのが具体的に何のための利用なのかというのを教えてください。

田中館長

システムバッテリーについては、貸出返却に使っているシステムのサーバーにバッテリーが付いております。停電等がございましたときに、バッテリーが起動しまして、安全にシャットダウンできるようにするものでございまして、こちらが概ね3年で寿命を迎えますので、定期的に交換が必要ということになっております。かなり大きなサーバーですので、バッテリー一つでも高額になってしまうというところがございます。

次に、保守委託については、コンピューターシステムの保守委託でございまして、サーバー等の機器、全ての端末等、サーバーは一カ所あるだけですが、端末が合計合わせて十数台あり、その分も含めての保守になりますので、ある程度の委託料になってしまいうということと、また貸出返却に使っているシステムのソフトの保守も含まれておまして、Windowsのバージョンアップ等があったときに、対応できるようにソフトをしっかり管理していただくとか、トラブルがあったときに修正しに来ていただくなど、SEの派遣費用等も入ったものになっております。

羽森委員

あと、サーバーというのは普段は図書館のどこに置かれているんですか。

田中館長

図書館の開架、利用者が出入されている本が置かれているフロアの隣に、作業室という、私たち職員が作業する部屋があります。その中にサーバーを置いておまして、鉄製の鍵付きの檻のようなものの中に格納する形で、地震等で何か落ちてきても大丈夫な、かなり頑丈な強度の設備に保管しております。

羽森委員

わかりました。ありがとうございます。

福井会長

ありがとうございます。他にございませんでしょうか。尾崎委員何かございませんか。

尾崎委員

はい。特にございません。

福井会長

よろしいですか。それでは予算、および主な事業についてはよろしいでしょうか。では3番のその他に入りたいと思います。事務局の方からお先にどうぞ。お願いいたします。

田中館長

まず、本日配布資料の教育振興基本計画です。

構成としましては、1章から4章で計画の意義や目標を上げ、第5章で学校教育と生涯学習活動に分けて、取組みを示すようになっております。ここでは、図書館についての記述がある第5章のみ紹介させていただきます。

まず15ページをごらんください。「1 主体に考え行動する「生きる力」を育む教育の推進」の欄です。この項目は学校教育ですが、読書は学校教育とも深くかかわるうえ、市立図書館が学校図書館支援をおこなっていることから、その旨が記載されております。15ページの1行めからの4行で現況に触れ、1番下、最後の2行で取組み内容を記載しています。

次に、23ページをご覧ください。「4 豊かな生涯学習活動と地域を創造する学びの支援」の欄です。この項目はタイトルどおり生涯学習に係る部分であり、市立図書館本体での取組みについて盛り込んでおります。23ページ1番下の4行及び次のページの上の2行で、読書離れなどの現況に触れ、24ページの1番下の4行で、子どもの読書習慣の定着などの取組み内容を記載しております。方向性を示す大きなくくりのものなので、具体的ではないですが、ご一読いただければと思います。

続いて、本日配布のチラシ開館40周年記念フェスについて。

本館である四條畷図書館は、今年度で開館40周年を迎えました。皆さまに支えていただいた賜物だと感謝申し上げます。この記念すべき年度の締めくくり、記念行事を開催いたします。プログラムを5つ用意しております。定番の人気行事の人形劇の他、初めての試みとして絵本セラピー、紙芝居師による公演、リサイクルコーナーの拡大版、雑誌付録の抽選会を実施します。

このなかの絵本セラピーですが、絵本の行事ですけれども、大人向けでございまして、基礎絵本セラピストである講師に読み聞かせをしていただいた後、講師から絵本の内容に関する簡単な質問があり、それを参加者間で共有するという、みんなで絵本を楽しもうという行事です。今回は5冊ほど用意いただいております。

絵本セラピーは、課題としてありました、大人向けの行事の開催と、大人への絵本の魅力のPRという2つを同時に扱える行事と考え、実施してみることにいたしました。しかし、残念なことに、定員16人に対して今のところ7人の申し込みにとどまっております。ツイッターなどのSNSも活用してPRしておりますが、伸び悩んでおります。当日の呼び込みなど、最後まで集客に努めたいと思います。

私からは、以上でございまして。続いて、部長からです。

阪本部長

民間のグループがされているもので、このようなチラシなんですけれども、エレベーターのそばに大きなポスターを貼ってございます。4月3日に、春風亭昇太さん、笑点でお馴染みの方をお招きして、滋賀県立大学の教授、そして大東市長、それから本市の東市長のトークという形で、飯盛城についてのイベントが4月3日、大東市の文化ホール、サーティーホールで開かれます。お値段2千円となっておりますが、お帰りの際にポスターを是非ご覧ください。大阪桐蔭高校さんの吹奏楽や、もちろん飯盛城の説明も本市の職員が登壇して、させていただきます。

また、このイベントと直接の絡みではないんですが、今、刊行されたばかりの四條畷市史第6巻を図書館に、配架させていただきました。民俗編でございまして。少し厚みのある第6巻なんですけど、出来立てで、貸出用と閲覧用と数はたくさんあります。民俗

編ですので、直近の、例えば戦後以降のお話などは、直接お話を聞きながら、本市の職員が執筆したということ、そして大正、明治時代については、家の倉庫から色々と資料を探し出していただいて、ご提供あるいはお借りしたなかで、写真を掲載したり、おじいちゃんやおばあちゃんから聞いた話なども加えながら、第6巻市史が出来上がりましたので、またお時間ある時に、図書館に立ち寄っていただければと思います。

以上、私からの報告です。

福井会長

はい。ありがとうございます。ただいまの説明に関して、何かご質問等ございましたら。ございませんか。事務局の方からも、もうございませんか。

田中館長

はい。

福井会長

それでは、令和3年度の第2回図書館協議会を以上を持ちまして、終わらせていただきたいと思います。皆さんありがとうございます。

委員一同

ありがとうございます。

福井会長

また、来年度もこのメンバーで、あともう1年、進めていきたいと思いますので、どうぞご協力よろしくお願いいたします。

委員一同

お願いします。

福井会長

最後に、副会長から一言、ご挨拶をいただきたいと思います。

高垣副会長

皆さんお疲れさまでした。コロナ禍に入り、個人的にすごく生活や活動を縮小している状態になりまして、そんな中で、私の年齢も半世紀を超えてしまうということも経験しまして、そしてつい最近には、腰痛持ちなんですけれども、そこから坐骨神経痛になってしまいまして、左の足が、太ももから足先まで、痛くて動けないという状態にも陥りました。運動不足など、色々あると思うんですけれども、自分も高齢者の仲間入りなんだなといえますか、そちらに目を少し向けるということではないですが、痛みをともなったときに全く動けなかったので、仕事もお休みを何日かまとめていただいたりして、この仕事をこのまま続けていけるのか、この仕事を辞めたら、それでなくても結構家に引きこもっているの、何をして過ごしていくんだろうか、残りのこの先何年になるかわからない人生を、どうやって生きていくのかそろそろ方向性を、仕事を続けるにしても、続けないにしても、どうしていくのかということ、少し考えているのですが、全く考えがまとまらない状態なんですけれども、そしてこのようなコロナ禍であっても、学校で教育に携わっている方たちや、市役所で働いている方たちは、市民や子どもたちのために、毎日コロナから隔離できることもなく働いていらっしゃることや、そして図書室ボランティアの方のこと。

私は実家の母が1人暮らしで高齢ですので、そこに毎週通っているということもあり、感染するわけにいかないという一心で、図書室ボランティアも、今は休ませていただいています。おはなし会の活動も自分が怖いと思う間はできないということで、休ませていただいている。しかし、今日は一生懸命出てきたというような状態なんです。ほんとに仕事と家と、整骨院と実家にしか通っていない今の生活形態のなかで、でも、まだ50代に入ったばかりですし、枯れるには早すぎるので、何かしていかないといけないけれども、好きなことは一生懸命しているのですが、こんな状態で、いいのかなとくすぶり続けているような状態です。今は、ここ数年はゆっくり考えながら、ゆっくりしてもいいのかなと思いつつ、でも自分の生活が潤いのあるものになりたいと切に願っているんですけれども。

どうまとめればいいのか、わかりませんが、皆さん毎日いつもお疲れさまですと言いたいです。今日はここに出席させていただいて、「ああ、よかったな」と感じているのが、今の感想です。ありがとうございました。

福井会長

皆に平等にやってくる悩みですので。私は60歳になったときに、少しぼやいていましたら、「何を言ってるの70歳になったらもっと大変よ」と言われまして、70歳になったら今度は、「80歳になったらもっと大変よ」と。この基本計画の方に人生百年というのが説明してあります。これから百年、百二十年の時代だと思しますので、頑張ってくださいませ。

委員一同

ありがとうございました。

上記議事録の顛末を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和4年6月30日

四條畷市立図書館協議会会長 福井 多恵子

同 副会長 高垣 聡美